学校法人日章学園 宮崎医療福祉専門学校　2019年度の自己評価に対する学校関係者評価結果

令和２年５月１３日実施

３段階評価　A：達成　　B：一定の成果あり　　C：不十分　　右の評定はA=3　B=2　C=1で点数化

自己評定(総合)	B (2.3)	学校関係者評定（総合）	B (2.4)

教育の方針	確かな知識・技術を身に付け心豊かで温もりのある医療人の育成するために、高い志と自主・自律の精神の下、協働と協調を基調とした教育を展開する。			
努力目標	自己評価	結　果　報　告	外部評価	学校関係者（外部委員）からの意見・提言
1.建学の精神をもとに医療福祉に有為な人材の育成を目指した誇り高い校風づくり	B	①毎日の朝礼とホームルームで建学の精神の唱和を行い、建学の精神を基とした教育の浸透を図った。　②本年度の学園努力目標及び学校と各学科の努力目標を毎月自己評価し、職員会議で集計を確認して翌月に繋げた。　③担任制を活かして、学生一人一人に細やかな指導を展開し毎朝の学科内ミーティングで学生状況を常に確認・共有して、学校・学科の目標に沿う人材育成に努めた。	B	努力目標について毎月自己評価をすることにより、職員全体の意識の共有が図られている。また、担任制という特色を生かして職員一人一人が学生の状況をよく把握されており、その情報を実習先でもフィードバックされてスムーズに指導が行われているように感じる。
2.国家試験等の合格実績向上とそのための学習態度の確立	B	①看護及びＰＴ養成学科においては、基礎基本の徹底を図り国家試験合格に向け年次的計画に従い実行した。　②国家試験合格率100%を目指して取り組んだが、残念ながら看護学科と理学療法士養成学科ともに達成できなかった。各学科で再考し目標達成に努めたい。　③医療事務学科では、全資格検定の合格率８割を目指したが、一部の検定で達成できなかった。	B	学習態度の確立には教師の授業の質も問われる。アンケートの教師に対する評価も生かすことが、学生にとっての学習態度の確立につながるはずである。指定規則の改定に伴い、臨床現場は、CCS化していく中で、養成校側は、OSCE の導入(学生評価も含めた)による医学知識、臨床能力、そして国試合格率の向上に繋げてほしい。
3.定員確保を目指した学生募集の推進	C	①体験入学増員を最大目標に掲げ、過去の実績を踏まえ3回のオープンキャンパスと5回にわたる学校説明会を開催したが、前年よりも参加者数が下回った。　②ガイダンスや併設専門学校視察SNS の活用等募集活動を展開して学校の魅力の情報発信に努めた。今年度は SNS 広告を実行し、より若年層のニーズに即した広報活動を展開する。　③残念ながら全学科で定員充足が達成できなかった。 ④高等教育の修学支援新制度の対象校に選ばれた。	B	西都市の人口、特に若年層の減少が大きいことからも止むを得ない面もあると思うが、社会人専願入試の時期を 3 月迄延ばすことで、一人でも多くの受験機会を増やし、定員充足につながるのではないか。修学支援新制度の活用も含め、更なる学校の魅力発信に努めていただきたい。
4．退学生の防止	B	①専門業者による心理診断手法を、１年生と２年生に対して夏と冬に２回実施し、教員の共通理解の基に学生の個別指導に役立てた。　②毎週初めに運営委員ミーティングを実施して、退学の防止に努めた。　③本年度退学数は前年度より４名減ったが目標の６名には届かなかった。	B	心理診断手法がどの程度効果があったかを検証することも必要、昨年度より中途退学生は減少しているが、目標には届いていないので更なる努力をしてほしい。在学中は元より、社会に出てからこそ学びが生きるという視点で、逞しさを育ててもらえると有難い。
5.個を生かす進路指導の推進	A	①1年次から適宜に個別面談を実施して、進路希望を把握し指導を行うとともに、毎月の学科会で情報を共有した。　②求人情報は SNS を通じて学生に提供するとともに、学生がいつでも閲覧できるようにファイリングした。　③例年通り関連施設や卒業生を招請して、就職ガイダンスや進路相談会、講演会、技術指導講習を各学科で実施した。 ④就職率100%を達成することができた。	A	就職率 100%という実績を毎年継続していることは、素晴らしい。これからも 100%を目指してほしい。先生方のきめ細やかな手厚い指導が見て取れる。これかも個を生かす指導を行い、国家試験の合格率の向上など学生の進路保障に注力していただきたい。
6.地域連携強化の推進	A	①ボランティア自体の要請件数の減少　②西都市内のボランティア要請に対して積極的に呼びかけ、学生のボランティア参加数が前年度の約 1.2 倍に増加した。　③学園祭は3回目を迎え、西都市中心市街商店街にて商工会と連携して多彩に実施し、地域の方々からも好評を得た。④西都市内で高校生バレーボール大会を主催(新型コロナウイルスの感染拡大により中止となる)	A	取り組んでいる地域ボランティアや学園祭の市中開催など、積極的取り組まれ貢献していることは高く評価できる。学生にとっても地域とのつながりは、地域包括ケアの時代にとても大切な体験になる。今後も継続した取り組みをしてほしい。
7.経費節減と校納金完納の推進	A	①毎月の職員会議で、水光熱・電話代の使用量を前年比数値も提示して節減意識化を促進し、総額で前年比減を達成できた。　②使用量の多い印刷機の紙使用量を毎週末に計測記録し、前年度同時期の量と比較しながら、随時職員へ情報提供した。 ③校納金は前期、後期とも完納であった。	A	職員会議などで、職員一人一人が経費削減について意識を共有化していることが大変評価できる。今後もより一層の経費削減に努めてほしい。

※「外部評価」は９名の委員の評価平均を四捨五入した結果の評定です。「学校関係者評定（総合)」は９名の「外部評価」７項目の平均を四捨五入した結果の評定です。